

平成 24 年度 「水質保全研究助成」

—募集要領—

(平成 24 年度募集)

平成 24 年 1 月



財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構の「水質保全研究助成」は、「財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成要綱」に基づき、以下の要領で募集します。

1. 助成対象研究

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構(以下、「機構」という。)が指定する分野に関する研究に対して、助成を行います。別紙の研究分野一覧を参照してください。

2. 助成対象団体

次のいずれかに該当する団体を助成対象とします。

- (1) 大学または大学付属の研究機関
- (2) その他の研究機関等(営利を目的としない、特殊法人、公益法人、公共機関等に所属する場合に限り)

3. 助成金額

1件についての助成限度額は年度当たり80万円です。ただし、研究の内容が本助成の目的達成に特に効果が高いと機構が認めた場合は、限度額を年度当たり100万円とする場合があります。

4. 助成期間

交付決定の通知日から平成25年3月15日までとします。

申請および交付決定は単年度ごとに行います。ただし、研究内容により1年以上の実施期間が必要であると機構が認めた場合は、原則として2年間(最長3年)の助成期間とすることができますが、次年度以降に募集要領に従い、申請に際して、必要書類の提出が必要です。

5. 応募方法

本助成を希望する団体は、別紙の応募様式に必要事項を記入の上、実施計画書および予算内訳書を添付し下記の宛先まで郵送またはEメールにて送付して下さい。同一申請者の複数応募はできません。(同一大学内の異なる研究機関による応募は可能とします) ご不明な点は下記までお問い合わせください。

(1) 提出書類

- ① 申請書 …… (様式1)
- ② 実施計画書 …… A4版用紙に数ページ程度(形式は自由)
- ③ 予算内訳書 …… (様式2)

※電子ファイルが、機構ホームページからダウンロードできます。

- <http://www.byq.or.jp/josei/index.html/>

(2) 送付先および問い合わせ先

〒540-0008

大阪市中央区大手前1丁目2番15号 大手前センタービル4階

財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構 総務企画部

電話：06-6920-3035

E-mail：hozenkiko@byq.or.jp

(3) 応募受付期間

平成24年1月12日（木）から平成24年2月24日（金）必着

※個人情報の取り扱いについて

応募いただいた方の個人情報は機構が厳重に管理し、
ご本人の承諾なしに第三者に提供することはありません。

6. 選考

(1) 選考方法

水質保全研究助成選考委員会により、選考を行います。

(2) 選考基準

選考にあたっては、以下の視点から総合的に判断を行い、助成金を交付する団体を決定します。

- ① 機構の実施する調査研究との整合
- ② 琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題解明や対策への期待度
- ③ 研究成果達成の実現性
- ④ 新しい視点や創意工夫
- ⑤ 研究担当者の申請研究にかけられる時間等（エフォート率）

(3) 選考結果の通知

交付決定後すみやかに、申請者に通知を行います。また、機構ホームページにも掲載します。

7. 助成金交付決定後の提出書類について

提出書類の様式は交付決定時に送付します。

(1) 交付決定後

- ・ 請書
- ・ 助成金請求書

(2) 助成研究終了時

- ・ 研究成果報告書
- ・ 精算報告書

平成 24 年度「水質保全研究助成」 募集研究分野一覧

(1) 水系水質管理のための有機性汚濁指標やそのリスク評価に関する研究

総合的な有機性汚濁指標に関する研究、また、それらを用いてのリスク評価に関する研究を対象

(2) 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究

水域水質や底質中の様々な汚染物質(例えば、PPCPs, 有機フッ素化合物, 消毒副生成物, 臭気物質など)の挙動把握に関する研究と分析手法の開発に関する研究を対象

(3) 琵琶湖・淀川流域における糞便性大腸菌などの病原性微生物の動態把握と削減技術に関する研究

遊び泳げる河川や湖沼を目指した安全で安心な流域の水質保全のための研究を対象

水質保全研究助成 過去の研究分野と採択研究テーマ(参考)

平成23年度水質保全研究助成一覧

	研究分野	団体名	研究テーマ
平成23年度水質保全研究助成	(1) 琵琶湖・淀川流域の難分解性有機物の特性把握に関する研究	京都大学大学院工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター	琵琶湖難分解性有機物の有機物組成および核磁気共鳴分光法による構造特性の解明
		兵庫県立大学環境人間学部	琵琶湖に溶存する難分解性溶存物質の蛍光スペクトル解析および超高分解能質量分析による特性把握と起源の推定
	(2) 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動把握および分布手法の確立等に関する研究	滋賀県立大学環境科学部	日用品由来化学物質(PPCPs)の環境中における分解・消失の可能性の検討
大阪大学大学院工学研究科		淀川流域におけるレチノイン酸受容体アンタゴニスト汚染の実態解明	
(3) 琵琶湖・淀川流域における病原性微生物の挙動把握と制御、削減に関する研究	大阪教育大学	水浴場の糞便汚染の変動とバクテリオファージを用いた汚染源の推定	

平成22年度水質保全研究助成一覧

	研究分野	団体名	研究テーマ
平成22年度水質保全研究助成	(1) 地球温暖化に伴う水道原水水質問題に関する研究	京都大学農学研究科	地球温暖化に伴う水道原水水質問題に関する研究(地球温暖化に伴う森林流域流出水の硝酸態窒素濃度の変動予測)
	(2) 難分解性有機物の特性把握とリスク評価に関する研究	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科	湖沼難分解性有機物の生分解に及ぼす共存物質の効果
		京都大学大学院工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター	季節変化を考慮した琵琶湖南湖水中難分解性有機物の特性把握と生態毒性評価
		兵庫県立大学環境人間科学部	琵琶湖に溶存する難分解性溶存物質の蛍光スペクトル解析および超高分解能質量分析による特性把握と起源の推定
	(3) 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動、削減手法等に関する研究	滋賀県立大学環境科学部	琵琶湖における日用品由来医薬品(PPCPs)の原単位法に基づく流入負荷量と琵琶湖からの流出負荷量
		大阪市立環境科学研究所	淀川下流域における水生生物保全にかかる水質および底質の総合評価
		大阪大学大学院工学研究科	淀川流域におけるレチノイン酸受容体アンタゴニスト汚染の実態解明
		京都大学地球環境学健康リスク管理論分野	人為由来化学物質の変換過程を考慮した統合型流域管理手法の構築
		京都大学大学院工学研究科	琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害汚染物質の挙動、削減手法等に関する研究
	(4) 琵琶湖・淀川流域における大気降下物の水質に及ぼす影響	京都大学大学院工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター	淀川流域における生活起源微量有害化学物質および病原性微生物の挙動と負荷量削減のための流域管理に関する研究
滋賀県立大学環境科学部		琵琶湖集水域に降下する大気汚染物質の琵琶湖水質への影響評価—過去・現在・未来—	

平成 24 年度 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
「水質保全研究助成」申請書

申請年月日 平成 年 月 日

ふりがな			ふりがな		
団体名 (所属名)			代表者名 (所属長)		
団体の種類	大学・特殊法人・公益法人・公共機関・その他 () (該当を囲む)				
団体の概要	分野、実績等：				
事務所の所在地	住所	〒			
	TEL		FAX		
連絡先	所属・役職		email		
	ふりがな 研究担当者名		TEL FAX		
	所属・役職		email		
	ふりがな 連絡担当者名 ※研究担当者不在時の連絡(同上でも可)		TEL FAX		
助成対象研究	助成研究テーマ	研究分野 (番号)			
	成果目標				
	研究期間	~	対象流域		
	研究概要：				
	スケジュール：				
	担当者の研究にかけられる時間(割合)および人員				
	期待される効果：				
助成希望金額	助成希望額総額： (初年度： 2年目： (3年目)：)				
他団体からの助成有無	有 ・ 無				

添付資料：①実施計画書 ②予算内訳書 (欄が不足する場合は別紙をつけてください)

水質保全研究助成経費 費目一覧

費目	内容
①謝金、賃金	外部協力者からの助言、協力に対する謝金等 補助作業のためのアルバイト等の経費等
②資料・印刷費	書籍、論文等購入費等 調査票、集計表等の印刷費等
③旅費	調査、会議等に伴う交通費、宿泊費等 (海外は除きます)
④賃借費	会議室の賃借料、機器の賃借料等
⑤委託費	現地調査、実験、データ整理等を委託する場合の経費等
⑥備品費	機械、器具の購入費等
⑦通信・運搬費	通信費、資機材発送費等
⑧消耗品費	資材、試薬、文具購入費等
⑨雑費	その他の経費

※経費は全て助成研究に直接必要なものとし、以下のものは認められません。

- ・ 団体の運営にかかわる経費
- ・ 助成研究以外の研究に要する経費
- ・ 飲食費
- ・ その他、助成研究への適用が主目的とならない経費